

FACE2019 損保ジャパン日本興亜美術賞 グランプリ 庄司朝美 Asami Shoji 《18.10.23》



1988年生まれ 東京都在住
2012年 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻版画領域修了
2015年 トーキョーワンダーウォール2015 トーキョーワンダーウォール賞
第18回岡本太郎現代芸術賞展 入選(構想計画所として参加)
2016年 個展「トーキョーワンダーウォール都庁・庄司朝美」(東京都庁・東京)
「また起きてから書きます」(akibatamabi21・東京)
2017年 個展「劇場の画家」(gallery21yo・東京)
個展「夜のうちに」(トーキョーワンダーサイト渋谷・東京)
2018年 個展「泥のダイアグラム」(Cale・東京)

7回目となるFACE2019は、前年比減少するものの870作品が出品されました。五次に及ぶ入選審査では、個人情報(作者名、作品名、年齢、性別、所属など)を伏せた作品本位の審査が行われました。数度にわたり真摯に作品に対峙することで作品の特性が際立ち、挙手と合議で入選作品71点を決定しました。入選者は女性35名、男性36名、平均年齢は39.4歳でした。

グランプリを受賞した庄司朝美さんは、透

明なアクリル板に油彩と鉛筆で描いています。タイトルが示すように、一日で仕上げるスピード感を伴います。美大で版画を専攻していたので、アクリル板の裏側にイメージを描くことは版画制作と共通しています。身体性を意識した即興イメージは脳裡に生起する独自のもので、透き通る美しさを感じさせる一方、神話的な怖さを合わせもっています。アクリル板に力強いストロークが輝く渾身の作品です。受賞作品は当館収蔵品となり、次回の「FACE展2020」でも展示されます。



《18.10.23》2018年 油彩・鉛筆・アクリル板 200×170cm

【展覧会データ】

展覧会名 | FACE展2019 損保ジャパン日本興亜美術賞展
会 期 | 2019年2月23日(土)～3月30日(土)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、読売新聞社
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜

2020年5月、美術館移転・オープンのお知らせ

当館は、現在の42階から隣接地に建設中の新美術館棟へ移転し、2020年5月の開館を目指しています。

また、移転準備のため、2019年9月30日から2020年2月14日まで長期休館を予定しています。休館後には42階での最後の展覧会として「FACE展2020」を開催します。

新美術館外観・イメージ図 提供:大成建設株式会社一級建築士事務所



【施設概要】

建築主 ■ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
構造 ■ 鉄筋コンクリート造
延床面積 ■ 3,955.65㎡
高さ ■ 39.9m
階数 ■ 地上6階地下1階
1階＝エントランスホール 2階＝ミュージアムショップ 3～5階＝展示室
展示室面積 ■ 780㎡
展示室天井高 ■ 4m
施工 ■ 大成・清水・鴻池建設共同企業体
設計 ■ 大成建設株式会社一級建築士事務所
展示室デザイン・内装 ■ 株式会社丹青社

新美術館エントランス・イメージ図 提供:大成建設株式会社一級建築士事務所

発行日 | 2019年3月(年1回発行)
編集・発行 | 公益財団法人 損保ジャパン日本興亜美術財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
デザイン | 若林純子
印刷 | 大城印刷株式会社

東郷青児記念
損保ジャパン日本興亜美術館
https://www.sjnk-museum.org/
03(5777)8600

春から夏にかけて開催したターナー展では、日本初公開作品を含む風景画が多数展示され、大変盛況となりました。6月には当美術館への初めての行幸啓を賜りました。天皇皇后両陛下は、ターナーの海景画などを熱心にご鑑賞されました。

イギリス風景画の巨匠 ターナー 風景の詩

ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー(1775～1851)はイギリスを代表する風景画の巨匠です。穏やかな田園風景、嵐の海など、自然の様々な表情を独特の空気感で表現し、イギリスの

みならず、印象派をはじめとするヨーロッパの風景画家、さらに明治期の日本の洋画家たちに大きな影響をあたえました。本展覧会は、スコットランド国立美術館群の所蔵作品を中心に、全てターナーによる作品で構



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 《ソマーヒル、トンブリッジ》1811年展示
油彩・キャンヴァス エディンバラ、スコットランド国立美術館群 ©Trustees of the National Galleries of Scotland



6月7日午後、ターナー展会場にて

成され、描かれた主題にそって「地誌的風景画」「海景—海洋国家に生きて」「イタリア—古代への憧れ」「山岳—あらたな景観美をさがして」という四つの章でターナーの芸術の核心に迫りました。水彩による作品や郡山市立美術館が所蔵する版画や書籍も多数出品され、会期中には関連イベントとして映画「ターナー、光に愛を求めて」の上映会とトークショーも行われました。また、6月7日には天皇皇后両陛下の行幸啓を賜りました。

【展覧会データ】

展覧会名 | イギリス風景画の巨匠 ターナー 風景の詩
会 期 | 2018年4月24日(火)～7月1日(日)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、毎日新聞社、スコットランド国立美術館群
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜、大日本印刷
後 援 | プリティッシュ・カウンシル
協 力 | 日本航空

当美術館のコレクションによる展覧会の開催

2019年1月から当館収蔵の東郷青児らの作品のうち、約90点が新潟市美術館に、そして27点が千葉県鋸南町の菱川師宣記念館に展示されました。

【展覧会データ】

展覧会名 | モダンアートの巨匠 東郷青児展
会 期 | 2019年1月19日(土)～2月17日(日)
会 場 | 菱川師宣記念館
主 催 | 鋸南町、鋸南町教育委員会
特別協力 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館
協 賛 | 株式会社 渡保健センター

【展覧会データ】

展覧会名 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館収蔵 東郷青児展
会 期 | 2019年1月12日(土)～3月24日(日)
主 催 | 新潟市美術館
共 催 | 新潟日報社
特別協力 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、損保ジャパン日本興亜
協 力 | 第四銀行、北越銀行、FM PORT79.0

巨匠たちのクレパス画展 日本近代から現代まで
岡本太郎、梅原龍三郎、小磯良平、熊谷守一、猪熊弦一郎…



岡本太郎《鳥と太陽》制作年不明
35.6×25.3cm サクラアートミュージアム蔵

クレヨンとパステルの特質をもつクレパスは、1925(大正14)年に日本で発明された画材です。大正デモクラシーを背景に自由画教育を主導した画家山本鼎(かなえ)が、クレヨンよりも描きやすい画材の必要性を訴えたことで開発が促進されました。クレパスは児童教育の現場で普及する一方、鮮明な発色、混色、重色などが可能な優れた特性のために、油絵具が入手困難だった第二次大戦直後から画家たちに注目され、愛用されてきました。サクラアートミュージアム所蔵作品より、近代日本画家を中心に100余名による約150点を紹介した本展では、幼い日を懐かしむ

スウェーデンの近代美術界を代表する画家カール・ラーション(1853～1919)の回顧展は、国内では24年ぶりです。1994年の紹介は絵画が中心でしたが、本展は壁画から挿絵、版画、私邸の室内装飾などの多様な活動を包括的に概観しました。ラーションの芸術観の背景には祖国の急速な工業化があります。北欧らしい田園生活が崩壊していく中、ラーションは妻と共に地方の木造小屋と伝統家具をリメイクし、自由に温かい、新しい家庭のモデルを生み出したのです。有名な画集『わたしの家』に描き出されたライフスタイルは、新しいスウェーデンらしさとしてデザイン界にも影響を与えました。インテリアに重要な

日々を美しく。理想を生きた手づくりの暮らし。
ラーション夫妻の芸術と家

役割を果たしている妻カーリンのモダンなテキスタイルも日本で初めて現物を展示し、力



カール・ラーション《アザレアの花》1906年
水彩 ティールスカ・ギャラリー
Photo: The Thiel Gallery/ Tord Lund

2018年度の鑑賞教育活動

新宿区教育委員会と美術館が連携をすることでスタートした新宿区立小中学校を対象とした「対話による美術鑑賞教育」支援は11年目になり、2018年度は小学校29校(全29校中)・中学校7校(全10校中)の授業支援をすることができました。また、春・秋の展覧会では一般来館者を対象とした「対話による鑑賞会『ギャラリー★で★トーク・アー

ト』」を、夏休みには特別企画『ふぁみりー★で★とーく・あーと』を2回開催し、ご家族で作品鑑賞を楽しんでいただきました。春には新たに9名のボランティアガイドスタッフが加わり、総勢71名での活動となりました。他館との交流会では、それぞれの活動を体験・理解し自身の活動を高め合う時間を共有しました。講演会では講師による「学習指導要領解説」改訂についてお話を聞

大人や子供連れのファミリー層まで幅広い世代が「知られざる名作」の多彩な表現を堪能しました。会期中、同館の主任学芸員清水靖子氏を講師に迎え、基本技法を学ぶクレパス画教室を開催、また全会期通しでクレパス画を自由に描く体験コーナーを設け、多くの来館者にご参加いただきました。

【展覧会データ】
展覧会名 | 巨匠たちのクレパス画展 日本近代から現代まで
会 期 | 2018年7月14日(土)～ 9月9日(日)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、産経新聞社
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜
協 力 | サクラアートミュージアム、サクラクレパス、ターレンスジャパン、アムス、教育美術振興会

強いデザインが注目を集めました。会場にはIKEAが自社商品でラーション家の居間の雰囲気を再現したコーナーも。12月4日には秋篠宮同妃両殿下にご来館を賜りました。

【展覧会データ】
展覧会名 | 日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念カール・ラーション
スウェーデンの暮らしを芸術に変えた画家
会 期 | 2018年9月22日(土)～12月24日(月・休)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜
後 援 | スウェーデン大使館
特別協力 | カール・ラーション・ゴーデン(記念館)
協 力 | イェーテボリ美術館、ティールスカ・ギャラリー

き、活動の基本部分を再確認しました。その他、研修会5回、勉強会3回を行い、ガイドスタッフ内の交流を大切にしながら、充実した活動を心がけています。



1

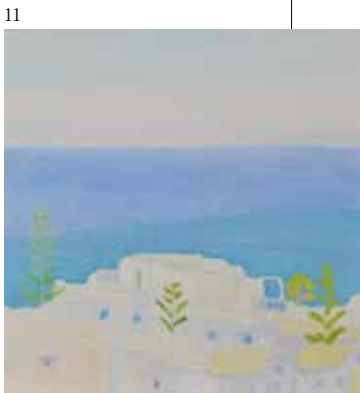
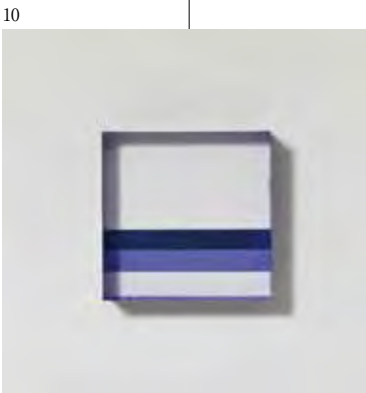


2



3

- 1 ―― 井上ゆかり《予感》2018年 油彩・キャンバス 194×162cm
- 2 ―― 大石奈穂《slowly blink I》2016年 油彩・石膏・綿布・パネル 91×116.7cm
- 3 ―― 遠藤美香《水槽》2016年 木版(墨・和紙) 91×120cm
- 4 ―― 石橋暢之《緊張(発車直前)》2018年 ボールペン・紙 102×122cm
- 5 ―― 唐仁原希《ここにいたから》2016年 油彩・キャンバス 162×198cm
- 6 ―― 松田麗香《そこにある それもまた 105》2018年 顔料・雲肌麻紙・パネル 162×130cm
- 7 ―― 仙石裕美《水の国の入り口》2018年 油彩・アクリル・キャンバス 45.5×38cm
- 8 ―― 三輪彩音《依存》2016年 岩絵具・水干・金箔・高知麻紙 162×162cm
- 9 ―― 杉田悠介《scope_》2018年 アクリル・パネル 145.5×145.5cm
- 10 ―― 青木恵美子《PRESENCE No 24》2015年 アクリル・アクリル板・パネル 22.5×22.5cm
- 11 ―― 阿部操《サントリーニ島》2015年 油彩・キャンバス 27.3×27.3cm



4



5

絵画のゆくえ2019 FACE受賞作家展

「年齢・所属を問わない」新進作家の登竜門として定着しつつあるFACE展は、その年に輝く俊英たちを発掘する平面作品の公募展です。毎年、約12倍の関門を通過した入選作品の中から厳選された作品が「グランプリ」、「優秀賞」に輝きます。本展は、FACE2016からFACE2018までの3年間に受賞した11名の新作・近作101点を紹介し、受賞者たちの受賞後の展開を紹介し、絵画の趨勢を探ります。

11名の内訳は、油彩・アクリル画7名、日本画2名、版画1名、ペン画1名で、女性9名、男性2名です。技法を問わず、FACE受賞作家たちの活躍には目を見張るものがあり、美術

館、画廊、コレクターからの照会が絶えません。FACE展の審査基準は「真に力があり将来国際的にも通用する可能性を秘めた作品」です。現代美術展を隈無く見て回っている審査員たちによって選出された作家たちにとっては、本展への出品はその期待に応えるべくプレッシャーとの戦いでありました。出品作家たちの新たな挑戦を受け止め、絵画のゆくえが感じられる企画となりました。

【展覧会データ】
展覧会名 | 絵画のゆくえ2019 FACE受賞作家展
The Way of Paintings 2019
―FACE Award Winners
会 期 | 2019年1月12日(土)～2月17日(日)
主 催 | 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、読売新聞社
協 賛 | 損保ジャパン日本興亜

